

2018年5月30日

2018年度東京学芸大学地理学会「総会」および「談話会」のご案内

このたび2018年度学芸地理学会「談話会」および「総会」を下記のとおり開催する運びとなりました。「談話会」では、学校現場で活躍しておられる卒業生に、教材開発や課題探求にかかせない実証的な研究・調査と教材づくりに関してご報告いただきます。とくに当学会は、昨年、『日本をまなぶ』第1巻(西日本編)・第2巻(東日本編)を古今書院から刊行しましたので、今回は本書執筆者に、地域研究と教材開発との関係について話題提供いただき、意見交換および情報共有したいと思います。

つきましては皆さま日々ご多忙とは存じますが、万障お繰り合わせの上、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

日 時：2018年6月30日(土) 14:30～17:40 (受付開始：14:00～)

会 場：東京学芸大学「合同棟」1階

**内 容：「談話会」14:30～16:50 『地域研究と教材開発の実践』-「日本をまなぶ」の執筆と関連して
「総 会」17:00～17:40 2018年度事業計画、予算等**

※「総会」終了後、「懇親会」18:00～19:30：生協第2むさしのホール2階コパン

「談話会」

テーマ：地域研究と教材開発の実践-『日本をまなぶ』の執筆と関連して-

教育現場における地理教育(教材開発)の充実のためには、その裏付けとなる実証的な地域の研究と調査が重要である。談話会では『日本をまなぶ』(古今書院、2017年刊)の執筆者たちに「地域研究と教材開発との関係」を語ってもらう。

1.趣旨説明：上野和彦(東京学芸大学名誉教授、学部16期、院2期)

2.話題提供

-1 大学教養教育，社会科教育教材論：本木弘悌(早稲田高等学院)，澤達大(京都文教大)

-2 小・中・高における地誌授業，地域研究等のあり方：立川和平(海城中高)，大矢幸久(学習院初等科)，永山淳一(学習院初等科)，沖田耕一(聖光学院)，牛島庸介(香蘭女学校)，森山隆裕(宮崎工業高校)

-3 地理学書の編集者の立場から：関 秀明(古今書院)等

5.コメント：小俣利男(東洋大・非 学部19期，院5期) 東京学芸大学地理学会シリーズ2『日本をまなぶ』(古今書院，2017年刊)を含めた総括。

6.全体での質疑応答・討論

7.今後の学芸地理学会シリーズ(第4巻 東京)刊行にあたってのお願い。